

笑って考えよう!

生活のこと 仕事のこと 未来のこと

報告

男の家事が社会を救う!

(c)HONOTA design



講師プロフィール



- 1963年生まれ、奈良県出身。1986年東京大学教養学部卒。
- 10年間2人の子供の保育園の送迎を一手に担い、今でも毎日の夕食作りを担当するジェンダー論の研究者。
- 子連れで渡米し、父子家庭も経験した。
- 日本テレビ「世界一受けたい授業」の東大生100人へのアンケートで東大の人気講義No.1に選ばれたジェンダー論の講義は毎年500人以上が受講し**立ち見が出る**。
- NPO法人の理事として保育所の運営にも参加。抱腹絶倒の講演で日本全国を行脚中。



講師

せ ち やま か く

瀬地山 角 さん

東京大学大学院 教授



**「世界一受けたい授業」
東大の人気講義No.1に選ばれた
ジェンダー論の講師!**

令和元年6月1日(土)、東京大学大学院教授の瀬地山角さんをお迎えして公開講座を開催しました。

男の家事をキーワードに、男性目線のユニークなジェンダー論を、わかりやすくユーモアたっぷりの語り口で、お話しくださいました。

社会はもちろん、個人にとっても、今までのやり方を変えていくのは容易ではありません。男の家事・育児を実践してこられた瀬地山先生のお話に、勇気をもらった方もたくさんいらしたのではないのでしょうか。

ご自身の体験を交えた瀬地山先生の講話に、参加していただいた多くの方から、「自分なりに具体的なことをやっと思いこうと思った」との感想をいただきました。男女共同参画に対する意識が高まるだけでなく、前向きな行動につながる講座になりました。



セミナーの内容の一部をご紹介します



イクメンという言葉が嫌い

- 夫にとって育児は手伝うものではなく、妻と分担するもの。
- イクメンは英語に訳せばファーザー。「育児をする父親」を表す新しい言葉を作る必要はない。

夫の家事時給は高い

- 女性が働き続けることができれば、その生涯収入は宝くじを当てるレベルの額に。
- 妻が仕事を続けることができれば、夫は残業をするよりも、家に帰って家事・育児をする方が、より高い時給を得られる計算になる。
- 夫だけが家計を支えるよりも、夫婦の二本柱で家計を支える方が、もしもの時に安心。

家族と一緒に夕食が食べられる幸せを大切にしよう

- 家族が死ぬときと、家族が生まれるとき、人生にそれ以上の大事件なんてありますか？
- 夫の産休を忌引きと同程度に普及させよう。
- 家族と一緒に過ごせる日々をもっと大切に。

△離婚率は三割以上。結婚＝永久就職の時代ではない
△これからの少子高齢化を現状の社会では支えられない

性別による役割分担から自由に夫婦で仕事・家事・育児を分担する

終始、笑いの絶えなかった今回の講座。「僕を投げ飛ばせる女性は沢山いる。吉田沙保りに勝てる男はほとんどいない」と参加者を笑わせながら、「個人差は必ず性差を超える」と続けます。

日本の自殺率の七割は男性というデータを踏まえ、男性も肩の荷を下ろそうと語りかける瀬地山先生。
男性こそワークライフバランスが必要だとおっしゃられました。

男女共同参画やジェンダー論と聞くと、男性の中には敷居が高いと感じる方もいるのではないのでしょうか。

生きづらさが指摘されることの多い昨今。男女共同参画は、女性だけでなく男性の人生も、より自由で豊かなものにすると感じました。

- ◎結婚や出産に関わらず、女性が働き手として活躍
- ◎子供を望む人たちにとって、より子育てしやすい環境へ
- ◎仕事優先の毎日から解放され、男性はもっと心身を健やかに



参加者の
アンケート
より



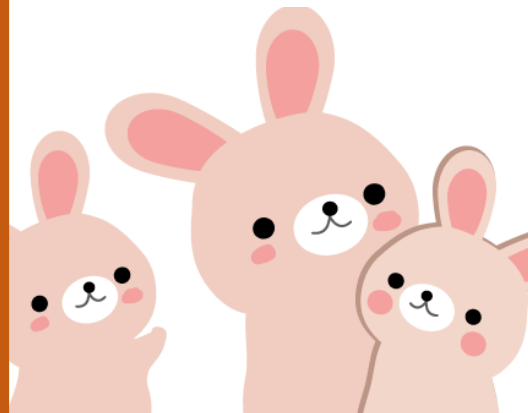
彼女と今回の講話の内容を共有して、将来二人の生活をどうしたいか話し合ってみてと思いました。(20代・男性)

ユーモアを交えた
講演で非常に面白
かったです。
(20代・女性)

今から育児をする上
で、大変参考になり
ました。
(30代・女性)

難しいことを分かりやすく、楽し
く、講話していただけたのがよ
かったです。周りにも今日聞いた
ことを伝えたい。
(30代・女性)

託児もあり、参加
しやすかった。
夫のころにも何
か響くものがあっ
たのではないかと
思う。
(30代・女性)



わたしも仕事と家
事とのバランスに
悩んでいたの
で、大変貴重な講座を
聞いてとても良
かったです。
(40代・女性)

「何を」「どこまで」
の妥協が必要か、
働き方について考
えさせられました。
(40代・男性)

夫の家事の時給が
高い、というのは
「なるほど」と思
いました。
(40代・男性)

面白かったのと、
「イクメン」とい
う言葉が嫌いとい
うところに共感した。
(40代・男性)

今回の講座申込者の男女比はほぼ半々となり、ご夫婦でご参加して下さった方々もいらっしゃいました。

瀬地山先生のご希望で、託児だけでなくキッズスペースを作るという新たな試みを実施。お子様連れで参加して下さる方の姿が多くみられ、講座内容に合った場が作れたのではないかと思います。

今後も、企画に合わせて参加者の希望に添える形で開催できるように努めてまいります。

